

# 宮本太郎『貧困・介護・育児の政治－ベーシックアセットの福祉国家へ』（朝日新聞出版、2021年）

## オンライン合評会

■日時：2021年8月20日（金）13時～16時

※最大でも16時30分過ぎには終了

■開催形態：Zoomミーティング

■報告者：宮本太郎先生（中央大学法学部・教授）

■討論者：田中拓道先生（一橋大学大学院社会学研究科・教授）

筒井淳也先生（立命館大学産業社会学部・教授）

■司会：加藤雅俊（立命館大学産業社会学部・准教授）

■事前登録制

参加をご希望の方は、8月17日（火）の13時までに、以下のリンク先・QRコードからお申し込みください。合評会前日までに、Zoomのミーティングルームのリンク先を送付します。

<https://forms.office.com/r/3Wu5zeeL67>

■お問い合わせ先：加藤雅俊（mkato@fc.ritsumeai.ac.jp）



### 【概要】

日本の福祉国家やそれを支える福祉政治はどのような特徴を有し、またどのような課題に直面しているのか、そしてこれらをふまえて、今後どのような方向を目指していくべきなのか。これらの問いは、社会諸科学で上記の点に取り組む研究者にとって重要なだけでなく、現代日本社会に生きるすべての人びとにとっても重要なものである。

『貧困・介護・育児の政治』（朝日新聞出版、2021年）において、政府や自治体の政策論議に関与しつつも、政治学の立場から批判的な考察を加えてきた著者の宮本氏は、1990年代以降の社会保障制度改革の政治過程を分析し、その特徴を明らかにする一方で、ベーシックアセットという観点から、福祉国家刷新の可能性を検討している。合評会では、宮本氏から新著の概要をご紹介いただいた上で、政治学を専門とする田中氏と、社会学を専門とする筒井氏からコメントをいただき、ディスカッションを行う。

本企画が、日本の福祉国家の特徴およびその動態や力学を理解し、今後のより良い生活保障のあり方を検討する機会となれば幸いである。

### 【主催】

・科学研究費・基盤研究（B）「『家族主義レジーム』の変容に関する国際比較研究－家族政策の多様化とその因果的背景」（研究代表者：加藤雅俊）

### 【共催】

・科学研究費・基盤研究（A）「財政再建国家化による政治変容の国際比較－民主的サブシステムの連続性と多様性」（研究代表者：横田正顕）

・科学研究費・基盤研究（A）「『資本主義と民主主義の両立（不）可能性』の政治理論的研究」（研究代表者：田村哲樹）

・科学研究費・基盤研究（B）「多様化する社会における福祉体制の動態－日韓台比較研究を通じた理論開発」（研究代表者：松田亮三）

・科学研究費・基盤研究（C）「公教育と社会活動を通じた政治統合の日加豪3か国比較研究－流動化する時代の政策対応」（研究代表者：加茂利男）

・立命館大学人文科学研究所 重点研究プログラム「グローバル化とアジアの地域」